

令和5年度食品ロス削減総合対策事業のうち食品ロス削減推進事業補助金
(寄附金付き未利用食品モデル構築事業)

寄附金付き未利用食品モデル構築事業

令和6年3月

株式会社 サンプラザ高知

目次

1. 事業の目的・内容
2. 寄附金付き未利用食品モデル概要
3. 寄附金付き未利用食品モデル実証実験
4. 寄付金贈呈式
5. 数値検証
6. 消費者アンケートの回答結果
7. 数値検証
8. まとめ

1. 事業の目的・内容

【事業の目的】

- ① スーパーマーケットで発生する販売商品の廃棄ロス金額の削減
- ② スーパーマーケットで販売する商品の一部を対象に寄付金を設定し、フードバンクなどの食事の確保が困難な方を支援する団体に寄付する仕組み構築
- ③ 食品ロス削減と生活困窮者支援の2つの社会的課題を解決する仕組み構築

【事業内容】

全体フレーム

①事業目標

- 1) 寄付付き商品の販売活動により食品ロス（廃棄）を前年対比で10%削減する。
* 金額試算で約 700,000 円（2023 年 11 月ないしは 12 月前年比）
- 2) 寄付金つき未利用食品販売モデルとして寄付金つき商品の販売を実施する。
- 3) 消費者の食品ロス削減とフードバンク活動に対する認識や参画意識を醸成し、日常の生活行動の変化を促す。
- 4) 本事業に参画する企業（サンプラザならびに他府県の企業）の従業員の食品ロス削減とフードバンク活動に対する認識や参画意識を醸成し、日常の生活行動の変化を促す。
- 5) 寄付金つき商品の販売に合わせて、事前・事後検討会議を実施する
- 6) 寄付金つき商品の販売を通じて得られた情報を報告書として作成する
- 7) 寄付金つき未利用食品販売モデルを他府県企業へ働きかけ、情報交換・実施検討する
- 8) 令和5年度新規提案
令和4年度の2社で行ったノウハウを活かし、令和5年度は1～2社加え、3社～4社で実施予定です。地域は高知県、静岡県に加え1～2つの地域を加える予定

②実証・調査

1. 実施方法

1) 検討会の実施

企画立案と実践計画を策定する社内検討会議の実施

出席予定者

所属	氏名
役員	水田社長、笠原常務、田村常務、細川取締役
商品部	長山部長、担当バイヤー
販売部	森田部長、全店店長
営業企画部	笠原専務、担当者
企画担当	東森

2) 自社従業員への説明会の実施

社内部門会議や店舗朝礼等での説明会の開催

3) 事前・事後検討会議の実施

事前検討会：委員の意見を聞き取った上で企画内容への反映を検討する。

事後検討会：実施内容と数値結果の報告を実施し、課題を抽出する。

出席予定者

分野	氏名
寄付先団体	主にフードバンク活動を行う団体とする
社会福祉	高知県社会福祉協議会担当者
行政	高知県庁職員
学校	高知県内の大学教員
消費者代表	高知県内の有職主婦

4) 寄付金つき未利用食品販売企画の実践（2023 年 11 月～12 月予定）

①生鮮部門（鮮魚、精肉、青果）や惣菜部門、日配部門（豆腐・牛乳）、食品部門（加工食品や菓子）から食品ロスの多いカテゴリーや商品を対象とする。

また、生活必需品や地元商品も寄付つき商品の対象とする。

②寄付金は通常販売時、値引き販売時で設定する

対象商品が① 1 個販売につき 1 円、②値引き販売時 1 円の寄付金を設定する。

例：A 商品が値引きで 1 個販売されると、①+②で 2 円の寄付金を設定する。

③食品ロス削減活動を生活者に伝えるための情報発信・広報に取り組む。

新聞折り込みチラシ、テレビ・ラジオ CM、自社ホームページ SNS を予定。

店内では「ポスター」「パンフレット」「POP」などの消費者の視認率を高めるツールを準備する。

④寄付金つき未利用食品販売企画の実証検証は 2023 年 11 月から 12 月にかけてを予定する。取り組み日数は 40 日前後（1 ヶ月半）から最長 61 日（2 ヶ月）までを予定する。

5) 寄付金つき未利用食品販売企画の実証検証

寄付金つき未利用食品販売企画の実践を通じて次のデータを抽出予定

①該当商品の売上金額、販売数量、値引き金額、値引き数量

②該当商品の廃棄金額、廃棄率

③各種数値の前年比比較や金額 PI 値比較で効果検証実施する。

6) 食品ロス削減についての消費者アンケートの実施（令和 5 年度新規提案）

寄付金つき未利用食品販売企画実証期間中に

①食品ロス削減に対する意識

②本実証に対する認識度に関するアンケート調査を実施

アンケートの設問項目の作成とその集約

7) POS システム会社との連携（令和 5 年度新規提案）

食品ロス削減の効果性について「値引き商品の動向」などについて消費者の動向

をデータで把握する方法について研究する分科会を設置します。

分科会の参加者は企画実施企業と POS システム会社の各担当者を予定します。

8) 報告書の作成

寄付金つき未利用食品販売企画実践と調査研究結果の報告書を作成する

2. 事業実施スケジュール

月	内容
2023年 5 月	社内検討会（経営会）1回・社内検討会（店長・BY）1回
6 月	社内検討会（経営会）1回・社内検討会（店長・BY）1回
7 月	社内検討会（経営会）1回・社内検討会（店長・BY）1回
8 月	社内検討会（経営会）1回・社内検討会（店長・BY）1回 事前検討会（経営会）1回 事前検討会（店長・BY）1回
9 月	社内検討会（経営会）1回・社内検討会（店長・BY）1回 事前検討会（経営会）1回 事前検討会（店長・BY）1回
10月	寄付金つき未利用食品販売企画実施 社内検討会（経営会）1回・社内検討会（店長・BY）1回
11月	寄付金つき未利用食品販売企画実施 社内検討会（経営会）1回・社内検討会（店長・BY）1回
12月	事後検討会（経営会）1回 事後検討会（店長・BY）1回
2024年 1 月	数値検証
2024年 2 月	報告書作成

3. 寄付先団体候補

生活困窮者支援や子ども食堂など食料や食事支援をおこなっている活動団体やその食料品の収集・供給を目的に活動しているフードバンク活動団体とする。

※2つ以上の複数の団体を選定する予定。

4. 事業成果・効果の検証方法

1) 寄付つき未利用食品販売企画結果検証

- ①対象商品の部門ごとの販売金額前年比検証
- ②企画実施期間中の店舗売上前年比との比較で対象商品購買意欲効果検証
- ③企画実施期間中とキャンペーン未実施の期間の比較検証

2) 廃棄金額検証

- ①部門ごとの廃棄金額前年比検証でキャンペーン効果検証
- ②全店全部門の廃棄金額前年比比較

2. 寄附金付き未利用食品モデル概要

1. 実施内容

① サンプラザ（本社所在地：高知県土佐市 展開店舗数 11 店舗）

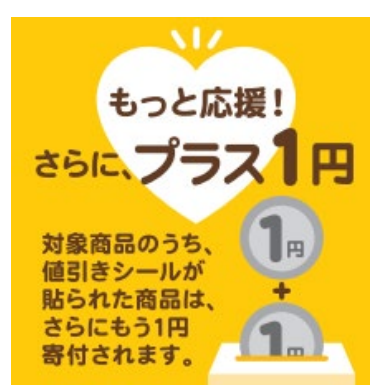
- 1) サンプラザ店内で販売している商品の中から、刺身・寿司・牛乳・豆腐・惣菜等の生活必需品や地元商品、高単価商品のいずれかに該当する商品を選定する。（以下対象商品とする）
- 2) 対象商品を 1 個購入につき 1 円＋値引き 1 円の合計 2 円の寄付金額を設定する。
- 3) 対象商品の値引き商品（寿司の値引き後商品など）を 1 個販売に対し、更に 1 円を寄付するものとする（寄付金 1 円の場合の例：対象商品 1 個販売で 1 円寄付＋値引き商品なら更に 1 円＝計 2 円となる。）
- 4) 上記販売活動を「食品ロスをなくそう！寄付付き商品販売キャンペーン」とする。
- 5) 「食品ロスをなくそう！寄付付き商品販売キャンペーン」をサンプラザ店内での告知や、サンプラザが展開するホームページやインスタグラム（SNS）や新聞折り込みで広報する。
- 6) 同キャンペーン実施期間中に寄付先団体である高知県社会福祉協議会の協力による「フードドライブボックス」を店内に設置して、寄付つき商品を購入するだけではない消費者（市民）の食支援への関わり方を用意して、幅広い角度から食品ロス削減を呼びかける。
- 7) 同キャンペーンの開始日に寄付先団体が店舗にて来店する消費者に対して企画主旨を伝えるために PR 活動を行う。PR することはフードバンク活動についての説明やフードドライブボックスを設置していることを知らせる内容。
- 8) 実施期間
2023 年 11 月 1 日（水）～12 月 17 日（日）の 47 日間
- 9) 実施店舗
サンプラザ全 11 店舗
- 10) 対象商品
全 313 品：刺身・寿司・牛乳・豆腐・惣菜等の生活必需品や地元商品を対象とする。
- 11) 寄付先団体
①フードバンク高知 ②（社福）高知県社会福祉協議会 ③NPO 法人こうち食支援ネット
- 12) 消費者アンケートの実施
寄付つき商品販売取り組み期間中に食品ロス削減と寄付つき商品販売に関する意識調査のためのアンケートを実施する。
- 13) POS レジ会社との情報交換・研究の場を設ける。
値引き商品に寄付金を加算する値引きプラス 1 円商品の販売点数を把握するために、POS レジを活用するなど有効な方法がないか、POS レジシステム会社と協議検討を実施する。

14) 告知時使用販促物

①店内パンフレット



②店内使用ポッター



②株式会社三善（本社所在地：静岡県掛川市 店舗数 1、以降の文面には店舗名であるサンゼンで表記する。）

- 1) サンゼンの店内で販売している商品の中から、刺身・寿司・牛乳・豆腐・惣菜等の生活必需品や地元商品、高単価商品のいずれかに該当する商品を選定する。（以下対象商品とする）
- 2) 対象商品を1個購入につき1円～10円の幅の中で寄付金額を設定する。
- 3) 対象商品の値引き商品（寿司の値引き後商品など）を1個販売に対し、更に1円を寄付するものとする（寄付金1円の場合の例：対象商品1個販売で1円寄付＋値引き商品なら更に1円＝計2円となる。寄付金10円の場合は寄付金を1円加算して11円とする。）
- 4) 上記販売活動を「食品ロスをなくそう！寄付付き商品販売キャンペーン」とする。
- 5) 「食品ロスをなくそう！寄付付き商品販売キャンペーン」をサンゼン葛川店店内での告知や、サンゼンが展開するホームページやインスタグラム（SNS）や新聞折り込みで広報する。
- 6) 同キャンペーン実施期間中に寄付先団体である掛川市社会福祉協議会の協力による「フードドライブボックス」を店内に設置して、寄付つき商品を購入するだけではない消費者（市民）の食支援への関わり方を用意して、幅広い角度から食品ロス削減を呼びかける。
- 7) 同キャンペーンの開始日に寄付先団体が店舗にて来店する消費者に対して企画主旨を伝えるためにPR活動を行う。PRすることはフードバンク活動についての説明やフードドライブボックスを設置していることを知らせる内容。
- 8) 実施期間
2023年11月1日（水）～12月17日（日）の47日間
- 9) 実施店舗：サンゼン葛川店 1店舗
- 10) 対象商品
寄付つき商品：全1,008品：刺身・寿司・牛乳・豆腐・惣菜等の生活必需品や地元商品を対象とする。値引きプラス1円寄付商品：314点：刺身、寿司、豆腐、惣菜など消費期限の影響で値引きを行う可能性のある商品を対象とする。
- 11) 寄付先団体
社会福祉法人掛川市社会福祉協議会：同団体が取り組むフードバンク活動の資金に贈呈。取り組み期間終了後に寄付金贈呈式を執り行う。

12) 消費者アンケートの実施

寄付つき商品販売取り組み期間中に食品ロス削減と寄付つき商品販売に関する意識調査のためのアンケートを実施する。

13) POS レジ会社との情報交換・研究の場を設ける。

値引き商品に寄付金を加算する値引きプラス1円商品の販売点数を把握するためにPOSレジを活用するなど有効な方法がないか、POSレジシステム会社と協議検討を実施する。

14) 告知時使用販促物

①店内ポスター



②店内使用ポッター



③株式会社スーパーチェン主婦の店中津川店（本社所在地 岐阜県中津川市 店舗数4、以降の文章には店舗名であるスマイルで表記する。）

- 1) スマイルの店内で販売している商品の中から、刺身・寿司・牛乳・豆腐・惣菜等の生活必需品や地元商品、高単価商品のいずれかに該当する商品を選定する（以下対象商品とする）
- 2) 対象商品を1個購入につき1円～200円の幅の中で複数の寄付金額を設定する。
- 3) 対象商品の値引き商品（寿司の値引き後商品など）を1個販売に対し、更に1円を寄付するものとする（寄付金1円の場合の例：対象商品1個販売で1円寄付＋値引き商品なら更に1円＝計2円となる。寄付金10円の場合は寄付金を1円加算して11円とする。）
- 4) 上記販売活動を「食品ロスをなくそう！寄付付き商品販売キャンペーン」とする。
- 5) 「食品ロスをなくそう！寄付付き商品販売キャンペーン」をスマイル店内での告知や、スマイルが展開するホームページやインスタグラム（SNS）や新聞折り込みで広報する。
- 6) 同キャンペーン実施期間中に寄付先団体である中津川市社会福祉協議会の協力による「フードドライブボックス」を店内に設置して、寄付つき商品を購入するだけではない消費者（市民）の食支援への関わり方を用意して、幅広い角度から食品ロス削減を呼びかける。
- 7) 同キャンペーンの開始日に寄付先団体が店舗にて来店する消費者に対して企画主旨を伝えるためにPR活動を行う。PRすることはフードバンク活動についての説明やフードドライブボックスを設置していることを知らせる内容。
- 8) 実施期間
2023年11月1日（水）～12月31日（日）の61日間
- 9) 実施店舗
スマイル4店舗（店舗名：スマイル駒場店、中村店、付知店、なすび川店）

10) 対象商品

寄付つき商品：全 222 品：刺身・寿司・牛乳・豆腐・惣菜等の生活必需品や地元商品を対象とする。

値引きプラス 1 円寄付商品：日々貼付するアイテムが変化するため対象商品のアイテム数を把握することが困難なため、値引きプラス 1 円シールの貼付枚数を計測することとした。

11) 寄付先団体

社会福祉法人中津川市社会福祉協議会：同団体が取り組むフードバンク活動の資金に贈呈。取り組み期間終了後に寄付金贈呈式を執り行う。

12) 消費者アンケートの実施

寄付つき商品販売取り組み期間中に食品ロス削減と寄付つき商品販売に関する意識調査のためのアンケートを実施する。

13) POS レジ会社との情報交換・研究の場を設ける。

値引き商品に寄付金を加算する値引きプラス 1 円商品の販売点数を把握するために POS レジを活用するなど有効な方法がないか、POS レジシステム会社と協議検討を実施する。

14) 告知時使用販促物

①店内ポスター



②店内使用スポッター



④三次フードセンター株式会社（本社所在地 広島県三次市ならびに広島市 店舗数 5、以降の文章には店舗名である三次フードセンターで表記する。）

- 1) 三次フードセンターの店内で販売している商品の中から、刺身・寿司・牛乳・豆腐・惣菜等の生活必需品や地元商品、高単価商品のいずれかに該当する商品を選定する（以下対象商品とする）
- 2) 対象商品を 1 個購入につき 1 円と 10 円の 2 種類の寄付金額を設定する。
- 3) 対象商品の値引き商品（寿司の値引き後商品など）を 1 個販売に対し、更に 1 円を寄付するものとする（寄付金 1 円の場合の例：対象商品 1 個販売で 1 円寄付＋値引き商品なら更に 1 円＝計 2 円となる。寄付金 10 円の場合は寄付金を 1 円加算して 11 円とする。）
- 4) 上記販売活動を「食品ロスをなくそう！寄付付き商品販売キャンペーン」とする。
- 5) 「食品ロスをなくそう！寄付付き商品販売キャンペーン」を三次フードセンター店内での告知や、同店が展開するホームページやインスタグラム（SNS）や新聞折り込みで広報する。

- 6) 同キャンペーン実施期間中に寄付先団体である三次市社会福祉協議会の協力による「フードドライブボックス」を店内に設置して、寄付つき商品を購入するだけではない消費者（市民）の食支援への関わり方を用意して、幅広い角度から食品ロス削減を呼びかける。
- 7) 同キャンペーンの開始日に寄付先団体が店舗にて来店する消費者に対して企画主旨を伝えるためにPR活動を行う。PRすることはフードバンク活動についての説明やフードドライブボックスを設置していることを知らせる内容。
- 8) 実施期間
2023年11月1日（水）～12月31日（日）の61日間
- 9) 実施店舗
三次フードセンター4店舗（店舗名：ベジタ店、オアシス店、みよし店、広島店）
- 10) 対象商品
寄付つき商品：全287品：刺身・寿司・牛乳・豆腐・惣菜等の生活必需品や地元商品を対象とする。値引きプラス1円寄付商品：全275点。日々貼付するアイテムが変化するため対象商品のアイテム数を把握することが困難なため、値引きプラス1円シールの貼付枚数を計測することとした。
- 11) 寄付先団体
社会福祉法人三次市社会福祉協議会：同団体が取り組むフードバンク活動の資金に贈呈。
NPO法人広島子ども食堂支援センター：同団体が取り組む広島県内の子ども食堂への食料支援活動の資金に贈呈。
取り組み期間終了後に寄付金贈呈式を執り行う。
- 12) 消費者アンケートの実施
寄付つき商品販売取り組み期間中に食品ロス削減と寄付つき商品販売に関する意識調査のためのアンケートを実施する。
- 13) POSレジ会社との情報交換・研究の場を設ける。
値引き商品に寄付金を加算する値引きプラス1円商品の販売点数を把握するためにPOSレジを活用するなど有効な方法がないか、POSレジシステム会社と協議検討を実施する。
- 14) 告知時使用販促物

①店内ポスター



②店内使用スポッター



3. 寄附金付き未利用食品モデル実証実験

1. 事前検討会開催

①サンブラザ事前事業検討会

【日時】2023年8月16日（水）午後2時00分～午後3時30分

【場所】高知県立ふくし交流プラザ 5階研修室

【出席者】（敬称略）

■検討委員

高知県 文化生活スポーツ部 県民生活課 チーフ（消費生活・NPO担当） 横山 浩司

高知県立大学法人 高知県立大学 地域教育研究センター センター長 清原 泰治

社会福祉法人 高知県社会福祉協議会 ボランティア・NPO センター所長 間 章

高知あいあいネット・フードバンク高知 代表 青木 美紀

消費者代表として参加 森木 めぐみ

■株式会社サンブラザ

株式会社サンブラザ 商品部 部長 長山 真也

株式会社サンブラザ 商品部 グロサリーチーフバイヤー 田村 崇徳

株式会社サンブラザ 商品部 青果チーフバイヤー 柿内 健介

■企画アドバイザー

ファン度レイジング・マーケティング 代表 東森 歩

■広報物制作（オンラインにて参加）

株式会社高知広告センター 営業局メディア・アカウント本部

ビジネスプロデュース2部 浦 千晴

■オブザーバー（オンラインにて参加）

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課

食品ロス・リサイクル対策室 室長 熊田 純子

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課

食品ロス・リサイクル対策室 課長補佐 浅浦 真二

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室

食品ロス削減・リサイクル班 調査員 古木 健太

株式会社 三次フードセンター地域密着プロジェクトリーダー 藤越 隆司

【議題】

1. 昨年実施内容報告

2. 2023年度の取り組みについて

①実施期間 2023年11月1日（水）～12月17日（日）を予定。

②消費者アンケートを実施。

3. 本企画の効果性を高めるために検討すべきこと

4. 閉会挨拶

②サンゼン事前事業検討会

【日時】2023年9月14日（木）14時00分～15時30分

【出席者】（敬称略）

■検討委員

掛川市役所 環境政策課 ごみ減量推進係長 石山 基和

掛川市役所 環境政策課 ごみ減量推進係 細川 雄矢

社会福祉法人 掛川市社会福祉協議会 地域支援係 大澤 彩季

掛川市地域おこし協力隊 隊員 芳川 翠

■株式会社三善

株式会社三善 代表取締役社長 川合 利弘

株式会社三善 専務取締役 川合 政典

株式会社三善 店長 近藤 裕之

■企画アドバイザー

ファン度レイジング・マーケティング 代表 東森 歩

■広報物制作（オンラインにて参加）

株式会社高知広告センター 営業局 代理店・アカウント本部 ビジネスプロデュース2部 浦 千晴

■オブザーバー（オンラインにて参加）

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課

食品ロス・リサイクル対策室 課長補佐 浅浦 真二

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室

食品ロス・リサイクル対策班 調査員 古木 健太

【議題】

1. 開催挨拶

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室
から開会挨拶。

株式会社 三善 代表取締役社長 川合利弘から開会挨拶。

2. 参加者紹介

参加者名簿に沿って自己紹介。

3. 検討課題

1) 検討の視点

- ・本企画の意義を消費者に注目、意識してもらうために必要なこと。
- ・食品ロス削減の効果を高めるために実践できること。
- ・消費者に企画を広報、周知してもらうためにできること。
- ・消費者向けのアンケートの設問項目の設定や集約の仕方について。
- ・その他、企画の効果性を高めるためにできること。

2) 2023年の企画として計画していることについて説明。

- ・取り組み期間など寄付つき商品販売と値引きプラス1円寄付の概要説明。
- ・フードドライブボックスを取り組み期間中に設置すること。
- ・取り組み開始日にサンゼン葛川店にて広報PR活動を実施すること

- ・ 取り組み期間中に消費者アンケートを実施すること。
 - ・ 取り組み期間終了後に寄付金贈呈式をおこなうこと。
- 3) 委員からの意見・コメントの要旨
- ・ 企画の主旨をいかに市民に知ってもらうか、が鍵を握る。
 - ・ PR ポスターに「寄付つき商品の仕組みの説明」や「寄付金の活用方法」について記載して企画内容を分かりやすく伝えられるようにする。
 - ・ 寄付金は販売金額の中に含まれていることをポスターの中に記載する。
 - ・ PR ポスターの中に掛川市が環境省の調査により評価された「家庭から出るごみ排出量の削減幅日本一」に関する記載を入れる。
 - ・ フードドライブボックスは設置期間終了後も引き続き設置できないか、を検討する。
4. 事後・事業検討会の実施日程について確認
- 2024 年 1 月中の実施を予定する。
5. 閉会挨拶
- 農林水産省から会議内で発言された内容に対する評価・感想のコメントをいただいた。

③スマイル事前事業検討会

【日時】 2023 年 9 月 11 日（月） 14 時 00 分～15 時 30 分

【出席者】（敬称略）

■検討委員

中津川市 環境水道部 環境政策課 主査 小畑 智恵
 社会福祉法人中津川市社会福祉協議会 大橋 雅樹
 付知こども食堂 桂川 志保
 地球まるまるはっぴい計画（もったいな市） 村下 美奈子
 中津川市生活学校 長谷川 節子

■株式会社スーパーチェーン主婦の店中津川店

代表取締役社長 鈴木 喜男
 中村店店長 末木 祐二
 駒場店店長 林 茂樹
 駒場店地域密着プロジェクトリーダー 中平 久美子
 駒場店地域密着プロジェクトリーダー 青山 千春

■企画アドバイザー

ファン度レイジング・マーケティング 代表 東森 歩

■広報物制作（オンラインにて参加）

株式会社高知広告センター 営業局メディア・アカウント本部 ビジネスプロデュース 2 部 浦 千晴

■オブザーバー（オンラインにて参加）

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課
 食品ロス・リサイクル対策室 課長補佐 浅浦 真二
 農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室
 食品ロス・リサイクル対策班 調査員 古木 健太

株式会社サンプラザ 商品部部長 長山 真也

■議題

1. 開催挨拶

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室
から開会挨拶。

株式会社スーパーチェーン主婦の店中津川店 代表取締役社長 鈴木喜男から開会挨拶。

2. 参加者紹介

参加者名簿に沿って自己紹介。

3. 検討課題

1) 検討の視点

- ・ 本企画の意義を消費者に注目、意識してもらうために必要なこと
- ・ 食品ロス削減の効果を高めるために実践できること
- ・ 消費者に企画を広報、周知してもらうためにできること
- ・ 消費者向けのアンケートの設問項目の設定や集約の仕方について
- ・ その他、企画の効果性を高めるためにできること

2) 2023 年の企画として計画していることについて説明。

- ・ 取り組み期間など寄付つき商品販売と値引きプラス 1 円寄付の概要説明
- ・ フードドライブボックスを取り組み期間中に設置すること
- ・ 取り組み開始日にスマイル駒場店にて広報 PR 活動を実施すること
- ・ 取り組み期間中に消費者アンケートを実施すること
- ・ 取り組み期間終了後に寄付金贈呈式をおこなうこと

3) 委員からの意見・コメントの要旨

- ・ 企画の主旨をいかに市民に知ってもらうか、が鍵を握る。そして、寄付金が追加での負担に感じられることがないようにするのが重要ではないか。
- ・ PR ポスターに「寄付つき商品の仕組みの説明」や「寄付金の活用方法」について記載して企画内容を分かりやすく伝えられるようにする。
- ・ 寄付金は販売金額の中に含まれていることをポスターの中に記載する。
- ・ 市役所から協力できることを引き続き検討したい。
- ・ フードドライブボックスは設置期間終了後も引き続き設置できないか、を検討する。

4. 事後事業検討会の実施日程について確認

2024 年 1 月中の実施を予定する。

5. 閉会挨拶

農林水産省から会議内で発言された内容に対する評価・感想のコメントをいただいた。

④三次フードセンター事前事業検討会

【日時】2023 年 10 月 11 日（水）10 時 00 分～12 時 00 分

【出席者】（敬称略）

■検討委員

三次市役所市民部環境政策課課長 折山 美代

三次市役所市民部環境政策課係長 三竿 好雄
社会福祉法人三次市社会福祉協議会地域福祉課課長 梶原 真美
社会福祉法人三次市社会福祉協議会担当 重廣 朱美
社会福祉法人広島市社会福祉協議会総務課長 高橋 浩二
社会福祉法人広島市社会福祉協議会総務課事務指導員 森田 清
NPO 法人広島こども食堂支援センター職員 徳重 麻由乃
NPO 法人広島こども食堂支援センター職員 増田 茜子
学生団体シードット 代表 明見 優成
学生団体シードット 副代表 江口 ひかる

■三次フードセンター株式会社

代表取締役社長 三田 武志
常務 松田 雅之
店舗支援部部長 栗原 克治
生鮮市場ベジタ店店長 瓶割 正伸
フードオアシスみよし店店長 品川 剛
みんなの産直スーパーyotte-ne 店長 藤越 訓子
販促課長 長岡洸生
地域密着プロジェクトリーダー 藤越 隆司
yotte-ne 広島店 溝口 咲子

■企画アドバイザー

ファン度レイジング・マーケティング 代表 東森 歩

■オブザーバー（オンラインにて参加）

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課
食品ロス・リサイクル対策室 課長補佐 浅浦 真二
農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室
食品ロス・リサイクル対策班 調査員 古木 健太

【議題】

1. 開催挨拶

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室
から開会挨拶。

三次フードセンター株式会社 代表取締役社長 三田武志から開会挨拶。

2. 参加者紹介

参加者名簿に沿って自己紹介。

3. 検討課題

1) 検討の視点

- ・本企画の意義を消費者に注目、意識してもらうために必要なこと
- ・食品ロス削減の効果を高めるために実践できること
- ・消費者に企画を広報、周知してもらうためにできること
- ・消費者向けのアンケートの設問項目の設定や集約の仕方について

- ・その他、企画の効果性を高めるためにできること
- 2) 2023 年の企画として計画していることについて説明。
 - ・取り組み期間など寄付つき商品販売と値引きプラス 1 円寄付の概要説明
 - ・フードドライブボックスを取り組み期間中に設置すること
 - ・取り組み開始日にスマイル駒場店にて広報 PR 活動を実施すること
 - ・取り組み期間中に消費者アンケートを実施すること
 - ・取り組み期間終了後に寄付金贈呈式をおこなうこと
- 3) 委員からの意見・コメントの要旨
 - ・寄付先団体の活動紹介や寄付金の使い途についてメインポスターや店内掲示の POP、SNS を通じて発信する。
 - ・フードドライブボックスと募金箱の設置について検討する。
 - ・10 月 28 日実施の子ども向け企画「おしごと体験」で寄付つき商品の POP を作成する。
 - ・企画開始日に寄付先団体と広報活動を実施し、消費者への浸透を図る。
 - ・社会福祉協議会が発行する「社協だより」にこの企画について掲載できる。
- 4. 事後事業検討会の実施日程について確認

2024 年 1 月中の実施を予定する。
- 5. 閉会挨拶

農林水産省から会議内で発言された内容に対する評価・感想のコメントをいただいた。

2. 事後検討会開催

①サンプラザ事後検討会

【日時】2024 年 1 月 31 日（水） 午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分

【場所】高知県立ふくし交流プラザ 5 階研修室

【出席者】（敬称略）

■検討委員

社会福祉法人 高知県社会福祉協議会 ボランティア・NPO センター所長 間 章
 高知あいあいネット・フードバンク高知 代表 青木 美紀
 消費者代表として参加 森木 めぐみ

■株式会社サンプラザ

株式会社サンプラザ 商品部 部長 長山 真也
 株式会社サンプラザ 商品部 グロサリーチーフバイヤー 田村 崇徳
 株式会社サンプラザ 商品部 青果チーフバイヤー 柿内 健介

■企画アドバイザー

ファン度レイジング・マーケティング 代表 東森 歩

■広報物制作（オンラインにて参加）

株式会社高知広告センター 営業局メディア・アカウント本部
 ビジネスプロデュース 2 部 浦 千晴

■オブザーバー（オンラインにて参加）

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課

食品ロス・リサイクル対策室 課長補佐 浅浦 真二

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室

食品ロス削減・リサイクル班 調査員 古木 健太

【議題】

1. キャンペーン結果

1) 実施内容

2) 実績

562, 681 円の寄付金額となる。3 団体に寄付を実施、合わせて贈呈式も実施

3) アンケート結果（7 ページ～参照）

4) 高知県公立大学法人高知県立大学 地域教育研究センターセンター長 清原 泰治様より

2. 参加者より

- ・高知県の取り組みとのつながりがあれば効果がまたあるのではないか。
 - ・定着させるために行政との連携をしていきたい。（食品ロスとなれば行政との連携はしやすい）
 - ・アンケートの結果に対して、アンケートの意味が分からずに答えていないか。
 - ・寄付付き商品の購入が無いとの答えの方は自分が買った商品が寄付付き商品の対象と把握せず購入しているのではないか。
 - ・フードバンクにどんなものを寄付したかの中身が実際と乖離がある。（実際多い物の1番はおかし）
 - ・サンプラザのキャンペーンについて回りから話を聞くことが多くなったので、キャンペーンも浸透したのでは。
 - ・手前取りや食品ロスは子どもへの教育することが効果がある。
 - ・アンケートの中にもある奥からとるお客様に対し、買った商品を使用できるか不安な部分もあり理解できるところもある。
- ⇒賞味期限の意味を（消費期限との違い）お客様への認知も必要では。
- ・ドライブBOXに入れるときに参考になるリクエストが掲示してみてもいいのでは。
 - ・食品ロス削減が何をさして削減になるのか分かりづらい。
 - ・アンケートの中で、商品をどちらも購入したことが無いという方は自覚がなかっただけでは。
 - ・手前取りをアピールする目を引くようなコメントを入れてもいいのでは。
 - ・次回はウェブ広告の活用を検討。
 - ・ロス削減と寄付という2つのコンセプトがあり、ハードルの高い取り組みと感じたが成果をだしている、店舗で取り組むことで消費者の意識を醸成されてプラスの効果があり、意識の高い取り組みをすることで店の信頼の向上、地域で愛させるお店になるのでは。
 - ・お店の仕掛けを十分理解している方が少ないのではないか。
 - ・寄付が消費者の負担なのかお店の負担なのか理解していないのではないか。売り上げの一部を寄付するという文言があれば理解が深まるのではないか。

- ・人間味のある結果が出たなという感想。人への伝え方で結果が変わっている。

3. 閉会挨拶

②サンゼン事後事業検討会

【日時】2024 年 1 月 24 日（水）午後 3 時 00 分～午後 5 時 30 分

【出席者】（敬称略）

■検討委員

掛川市 協働環境部 環境政策課 主幹 兼ごみ減量推進係長 石山 基和
掛川市 協働環境部 環境政策課 主幹 兼ごみ減量推進係長 細川 雄矢
社会福祉法人 掛川市社会福祉協議会 地域支援係 大澤 彩季
掛川市地域おこし協力隊 隊員 芳川 翠

■株式会社三善 店長 近藤 裕之

■企画アドバイザー ファン度レイジング・マーケティング 代表 東森 歩

■広報物制作 株式会社高知広告センター 浦 千晴

■オブザーバー

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課
食品ロス・リサイクル対策室 課長補佐 浅浦 真二
農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室
食品ロス削減・リサイクル班 調査員 古木 健太

【議題】

1. 開会挨拶

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室
から開会挨拶。

2. 参加者紹介

3. 取り組み実績報告と意見交換

1) 意見交換の視点

- ・食品ロス削減とフードバンク活動支援につなげる寄付つき商品販売企画の取り組み結果とその効果・影響について考察する。
- ・消費者アンケートの回答結果から消費者の日頃の意識や購買行動への影響について考察する。
- ・取り組み結果やアンケートの回答結果から今後の取り組みに活かすことができる要素を抽出する。

2) 2023 年 11 月 1 日（水）から 12 月 17 日（日）まで実施の食品ロス削減とフードバンク活動支援につなげる寄付つき商品販売企画の概要と実績・成果報告。

3) 委員の皆様からの意見・質疑などの要旨

- ・物価高の経済環境下で寄付つき商品販売金額 PI 値が上昇しているのは、企画の主旨が消費者に浸透してきているのではないか。

※PI 値 (Purchase Index) = 購買客数 1,000 人あたりの買い上げ率。

- ・市役所環境政策課作成の「てまえどり」POP がサンゼン以外の店舗でも掲示されているので事業者の中での広がりも感じる。
- ・寄付金の使い途についてもっと分かりやすく表示した方が良かったのではないかな。
- ・スーパーマーケットから排出される食品廃棄がまだまだ多いように感じる。行政の課題でもあるように思う。
- ・寄付つき商品を買うことで社会に貢献したいという気持ちを満たすことができた。反面、フードドライブボックスはわざわざ持ってくる手間を感じる。もっと気軽に寄付できる仕組みを考えてみたいと思う。

4) 次回の取り組みに反映したい項目などまとめ。

- ・市役所作成の「てまえどり」POP は企画実施期間終了後も継続して掲示する。
- ・寄付金の使い途をもっと分かりやすく伝えるために寄付先団体とサンゼンと一緒に説明する動画を制作して店内で放送したり、SNS で配信して広報に努めたい。
- ・フードドライブボックスの設置は次回は 3 月から 4 月末（もしくは 5 月 GW 明け）にかけて設置したい。

4. 閉会挨拶 農林水産省 食品ロス・リサイクル対策室から挨拶。

④ スマイル事後事業検討会

【日時】2024 年 1 月 23 日（火）午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分

【出席者】（敬称略）

■検討委員

中津川市 環境水道部 環境政策課 主査 小畑 智恵

社会福祉法人中津川市社会福祉協議会 大橋 雅樹

付知こども食堂 桂川 志保

地球まるまるはっぴい計画（もったいな市） 村下 美奈子

中津川市生活学校 長谷川 節子

■株式会社スーパーチェン主婦の店中津川店

代表取締役社長 鈴木 喜男

中村店店長 末木 祐二

商品部バイヤー 岸 伸太郎

駒場店地域密着プロジェクトリーダー 青山 千春

駒場店地域密着プロジェクトリーダー 青山 正子

■企画アドバイザー

ファン度レイジング・マーケティング 代表 東森 歩

■広報物制作

株式会社高知広告センター 浦 千晴

■オブザーバー

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課

食品ロス・リサイクル対策室 課長補佐 浅浦 真二

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室
食品ロス削減・リサイクル班 調査員 古木 健太
株式会社サンプラザ 長山 真也

【議題】

1. 開会挨拶

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室
から開会挨拶。

2. 参加者紹介

3. 取り組み実績報告と意見交換

1) 意見交換の視点

- ・食品ロス削減とフードバンク活動支援につなげる寄付つき商品販売企画の取り組み結果とその効果・影響について考察する。
- ・消費者アンケートの回答結果から消費者の日頃の意識や購買行動への影響について考察する。
- ・取り組み結果やアンケートの回答結果から今後の取り組みに活かすことができる要素を抽出する。

2) 2023年11月1日（水）から12月31日（日）まで実施の食品ロス削減とフードバンク活動支援につなげる寄付つき商品販売企画の概要と実績・成果報告。

3) 委員の皆様からの意見・質疑などの要旨

- ・値引きプラス1円シールを該当する商品に貼付するのは作業としては大変だった。が、現場のスタッフの廃棄ロス削減への意識が高まることにつながり、製造数や発注数を慎重に考えるきっかけとなった。
- ・取り組み初月11月は先月対比で廃棄ロスが大幅に削減できた。現場スタッフの意識の向上と発注数見直しなど改善策が効果を発揮した。12月は反対に廃棄ロスが増加した。年末に向けて商品仕入れが増加したため、こういった仕入れ増加の時期の廃棄ロス削減管理が今後の課題として浮かび上がった。
- ・市民が食品ロスについて考えるととても良い機会になっている。さらに市民にこの企画の主旨を浸透させていきたい。
- ・青果コーナーのカット野菜の中で消費期限が迫るものを上段から下段の目につきやすい場所に移動させる工夫をとった。この企画をきっかけに青果では廃棄商品の記録を毎日つけるようにしている。
- ・寄付つき商品の「つき」が寄付金が含まれているのか、含まれず加算されるのか、がよく分かっていないお客様がいた。途中から「寄付つき商品」を「寄付金1円」に表記を改めた。
- ・地元の社会的課題と経済循環への貢献という観点からこの取り組みは継続したい。

4) 次回の取り組みに反映したい項目などまとめ。

- ・フードドライブボックスを1月以降も継続して設置し、通年設置とする。
- ・次回の取り組み前に「寄付つき商品でできる身近な社会貢献」などのタイトルで市民向けの公開講座を開催したい。市役所や社会福祉協議会、関連するNPO団体にもパネリスト

や事例紹介として登場してもらい、市民と企業と行政が一体となって食品ロス削減について考え行動を起こすきっかけとなる場としたい。

4. 閉会挨拶 農林水産省 食品ロス・リサイクル対策室から挨拶。

⑤ 三次フードセンター事後事業検討会

【日時】2024 年 2 月 26 日（月）午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分

【出席者】（敬称略）

■検討委員

三次市役所市民部環境政策課係長 三竿 好雄

三次市役所市民部環境政策課主事 山口 瑛美

社会福祉法人三次市社会福祉協議会地域福祉課課長 梶原 真美

社会福祉法人三次市社会福祉協議会担当 重廣 朱美

三次いしだたみ子ども食堂運営会・フードバンクみよし 片岡 幸治

■三次フードセンター株式会社

代表取締役社長 三田 武志

店舗支援部部長 栗原 克治

生鮮市場ベジタ店店長 瓶割 正伸

フードオアシスみよし店店長 品川 剛

みんなの産直スーパーyotte-ne 店長 藤越 訓子

販促課長 長岡洸生

地域密着プロジェクトリーダー 藤越 隆司

■企画アドバイザー

ファン度レイジング・マーケティング 代表 東森 歩

■オブザーバー

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課

食品ロス・リサイクル対策室 課長補佐 浅浦 真二

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室

食品ロス削減・リサイクル班 調査員 古木 健太

【議題】

1. 開会挨拶

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室
から開会挨拶。

2. 参加者紹介

3. 取り組み実績報告と意見交換

1) 意見交換の視点

- ・食品ロス削減とフードバンク活動支援につなげる寄付つき商品販売企画の取り組み結果とその効果・影響について考察する。

- ・消費者アンケートの回答結果から消費者の日頃の意識や購買行動への影響について考察する。
 - ・取り組み結果やアンケートの回答結果から今後の取り組みに活かすことができる要素を抽出する。
- 2) 2023 年 11 月 1 日（水）から 12 月 31 日（日）まで実施の食品ロス削減とフードバンク活動支援につなげる寄付つき商品販売企画の概要と実績・成果報告。
- 3) 委員や出席者からの意見・質疑などの要旨
- ・三次市社会福祉協議会発行の「社協だより」（12 月 10 日発行・発行部数 24,000）に「日常の買い物が寄付につながる新しい仕組み」というタイトルで企画の紹介文を掲載した。
 - ・2 ヶ月間の取り組み中の改善としては販売点数の伸びない商品は寄付つき商品から外し、点数の伸びを期待できる商品との入れ替えをおこなった。
 - ・寄付つき商品は店内の中で 1 カ所に集めて陳列をされていて分かりやすかった。が、その場所を見逃したお客様からは分かりにくい、という意見がアンケートに出ているように思われる。
 - ・惣菜や刺身など消費期限が迫る商品に「値引きプラス 1 円」シールは効果があった。ただし企画が終了してシールを貼らなくなったら、元に戻ってしまうのではないか。食品ロス・廃棄ロス削減を継続して取り組めるようにする必要があると感じる。
 - ・事業者にはやむを得ず廃棄される食品を何かの形で活用できる方法を考えて欲しい。
- 4) 次回の取り組みに反映したい項目などまとめ。
- ・次回の同種の取り組みに際には寄付先団体の活動や寄付金の使い途についてさらに分かりやすく情報発信をおこないたい。動画での発信も視野に入れる。
 - ・次回の取り組み前に「寄付つき商品でできる身近な社会貢献」などのタイトルで市民向けの公開講座を開催したい。市役所や社会福祉協議会、関連する NPO 団体にもパネリストや事例紹介として登場してもらい、市民と企業と行政が一体となって食品ロス削減について考え行動を起こすきっかけとなる場としたい。
4. 閉会挨拶 農林水産省 食品ロス・リサイクル対策室から挨拶。

3. サンプラザ展開事例

①キックオフイベントの開催

* 店頭集合陳列にてキックオフイベント開催



* お客様に企画説明



* 水産部門：食品ロスが多いかつお刺身・タタキコーナーでの展開



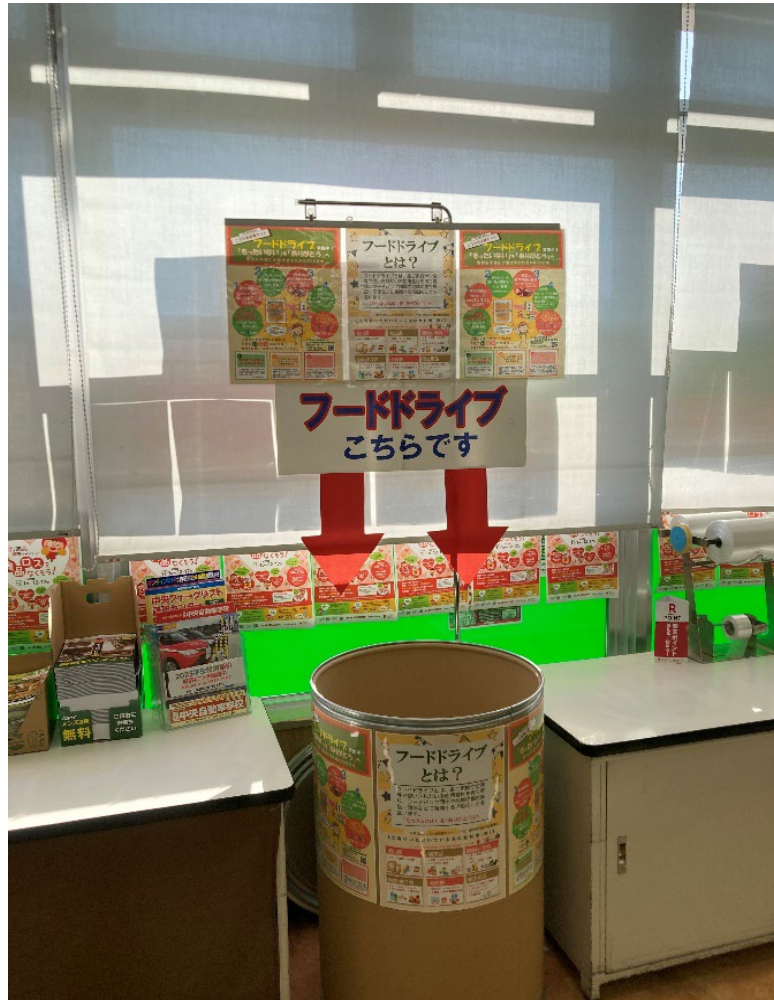
* 惣菜部門：食品ロスが多い、から揚げや煮物コーナーでの展開



* 店頭集合陳列



②フードドライブ BOX の設置



緑ヶ丘店 : 85.095 K g

天王店 : 43.656 K g

上記写真のキックオフイベントを実施した緑ヶ丘店では約 85 K g と多くの寄付をいただいた。中身については、米・缶詰・菓子飲料が多く、天王店では犬用缶詰も入っていた。確かにペットの需要も今後出てきそうである。

③メディア露出

1) 10月22日(日)	高知放送	7:00~	事前告知放送
2) 11月3日(金)	テレビ高知	14:45~	実施内容放送
3) 11月9日(木)	エフエム高知	16:30~	実施内容放送
4) 11月14日(火)	高知放送	11:19~	実施内容放送